

# 大豆栽培管理情報 (第5号)

令和元年 7月12日  
アルプス農協管内農業技術者協議会

## 1. うね間かん水の実施～開花期以降は水分が必要～

- 開花期(単作エンレイ:7月17日頃)から9月上旬の間、3日以上晴天日が続いた場合は、土壌の乾きに応じてうね間かん水を行きましょう。
- かん水は短時間で行い、圃場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水しましょう。
- 地域での計画的な用水の利用を行きましょう。



大豆は開花期以降、多くの水が必要



うね間かん水の様子

### うね間かん水の効果

- ①着莢数の確保 ②百粒重の増加 ③品質の向上

## 2. 病害虫防除

- ウコンノメイガの常発地では、幼虫による葉巻の発生を確認したら、速やかに防除しましょう。
- 紫斑病・カメムシ類等の病害虫を対象とした2回の基本防除を徹底しましょう。
- 農薬の使用基準を守り、周辺への飛散防止に努めましょう。

《病害虫防除の目安》 ※ 下表以外の病害虫についても発生状況に応じて適切に防除しましょう。

		随時防除	基本防除		随時防除
散布時期		7月下旬～8月上旬 【葉巻を発見したら】	8月上～中旬 【莢が伸びきった頃】	8月下旬 【枝豆程度の頃】	8月下旬～9月中旬 【被害を発見したら】
対象病害虫 農薬名 散布量	粉剤体系	ウコンノメイガ	紫斑病、カメムシ類	紫斑病、カメムシ類、アブラムシ類	ハスモンヨトウ、マメシクイガ、カメムシ類、アブラムシ類
		サイアノックス粉剤 4 kg/10a	スミチオンベルコート粉剤DL 3 kg/10a	Zボルドートレボン粉剤DL 4 kg/10a	トレボン粉剤DL 4 kg/10a
	液剤体系	ウコンノメイガ	紫斑病、カメムシ類	紫斑病、カメムシ類	ハスモンヨトウ、マメシクイガ、カメムシ類、アブラムシ類
		プレバソンフロアブル5 4,000倍 150 ℓ/10a	ベルコートフロアブル 1,000倍 + ダントツフロアブル 2,500倍 150 ℓ/10a	アミスタートレボン SE 1,000倍 150 ℓ/10a	トレボン乳剤 1,000倍 150 ℓ/10a

ウコンノメイガによる葉巻



紫斑病



イチモンジカメムシ



ハスモンヨトウ



## 3. 雑草防除

- 圃場周辺での、イヌホオズキ類等帰化雑草の早期発見に努め、開花・結実前に抜取りしましょう。
- 雑草が残っている圃場では、非選択性除草剤を散布するなど、適正に管理しましょう。

《除草剤散布の目安》

除草剤名	使用時期	適用雑草	10a 当り使用量	使用回数
バスタ液剤	雑草生育期 ・うね間処理 ・株間処理(本葉5葉期以降) ただし、収穫28日前まで	1年生雑草	300～500mℓ (水100ℓ当り)	ゲルホシネット(バスタ)及びゲルホシネットP(サクサ)
ザクサ液剤	雑草生育期 ・うね間処理 ただし、収穫28日前まで	1年生雑草	300～500mℓ (水100ℓ当り)	3回以内

※非選択性除草剤のため、吊り下げノズル等を使用し、大豆の葉や周辺作物にかからないように散布する。

